

今月の

ブックトーク

「13」の持つ不思議な力

鈴木 千尋／和光小学校学校司書

11月2日は十三夜のお月見です。旧暦9月13日の夜、満月より少し欠けた月を愛でるこの風習は日本独自のもの。考えてみると、13というのは少し半端で不思議な数です。時計もカレンダーも干支も12まで。13は不吉な数として扱われることもあります。

有名なグリム童話の「**ねむりひめ**」も、13という数字がそもそも事の始まりでした。姫の誕生を祝う宴会上、たくさんの客とともに、運を授けてくれる魔力を持つうらない女たちも招待されました。ところが、13人いたのに、金の皿が12枚しかなかったので、1人だけは呼ばれませんでした。自分だけ呼ばれなかったことを恨む13人目の女が宴会上にあらわれて「ひめは15になったら、つむにさされて、たおれてしめぞ!」と呪いをかけます。呪いをとりけすことはできず、姫は死ぬのではなく、百年眠り続けるのだとほかの魔女が呪いを軽くしてくれました。そして姫が15になったある日…。味わい深い絵とともに、この続きを楽しんでください。

次は、13時を打つ大時計の鐘の音が夜中に聞こえてきたお話。「**トムは真夜中の庭で**」トムは、弟がはしかにかかってしまい、うつらないようお婆さんのうちに預けられます。退屈で眠れない真夜中に、ホールにある古い大時計が13回鳴ったのが聞こえました。それをきっかけに、あるはずのない美しい庭園を発見します。そこで出会った少女ハティと仲良くなり庭で遊びますが、ひとたび家の中に入るとあつという間に元のお婆さんのアパートに戻ってしまうのです。この不思議な庭は時間軸が違うよう

で過去に戻ったり、また先に行ったりしているようでした。トムは、ハティは幽霊かもしれないと思い、この謎を解き明かそうとします。この物語の結末はトムとハティと13の時を打つ大時計だけが知っています。あなたも読んで秘密を教えてください。

13は人の一生で言えばお祝いの数でもあります。沖縄などでは、子どもの成長を祝う十三祝いとよばれる伝統的行事。魔女の世界でも13歳は大人の一步のようです。「**魔女の宅急便**」のキキは人間と魔女の間に生まれた子ども。魔女になると決めた子は、13歳の満月の夜に独り立ちすることになっています。魔女のいない町で一人暮らしをするのです。キキは黒猫のジジと一緒にコリコという港町で、宅急便屋を始めます。まだ半人前のキキ、町の人の役に立つことはできるでしょうか? 頑張るキキを応援しながら読みたくなる本です。映画とは少し違った展開なので、映画を見た人も楽しめますよ。

最後に13の持つ不思議な力をみなさんも体験できる本を紹介します。「**たのしいマジック**」この本はひもやスカーフ、トランプなどを使ったマジックをわかりやすく教えてくれます。この本にのっている「13の不思議」というトランプマジックをやってみましょう。(P109を実演) 13という数字にからめて1枚のカードを選び出しますが、実はそれが前もって予言されている不思議な手品です。13には不思議な力があるのがおわかりいただけたでしょうか。みなさんも試してみてください。



フェリクス・ホフマン・エ
セタ ていじ・やく
福音館書店



フィリパ・ヒアス・作
高杉 一郎・訳
岩波書店



角野 栄子・作
林 明子・画
福音館書店



ゆうき とも・著
よしなが こうたく・絵
偕成社

最後のページの：**Q1** ② 植物 **Q2** ② 折り紙 **Q3** ① はじめて **Q4** ① たんぱくしつ
クイズの答え

※「今月のブックトーク」「図書館クイズ」は、全国学校図書館協議会Webサイトに掲載しています。QRコードより、PDFもご利用ください。

